様式２

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	38・光村	第１学年 第２学年 第３学年	国語・731 国語・831 国語・931	国語１ 国語２ 国語３
取扱内容 （学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　話すこと・聞くこと 　第１学年では、構成を考えて好きなものをスピーチしたり、要点や感想をメモを取りながら聞き質問したりする活動、第２学年では、聞き手を意識してプレゼンテーションをしたり、司会者などの役割を決めてパネルディスカッションをしたりする活動、第３学年では、資料を活用してスピーチしたり、異なる立場からの意見を調整しながら提案したりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　書くこと 　第１学年では、集めた情報を整理し、構成を工夫してレポートを書いたり、鑑賞したことを文章にしたりする活動、第２学年では、視点を変えて物語を書いたり、気持ちが効果的に伝わるようにお礼の手紙を書いたりする活動、第３学年では、分析し批評する文章を書いたり、内容にふさわしい紙面構成を考えて修学旅行記を編集したりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　読むこと 　第１学年では、形式や表現の特徴を考えながら音読したり、図表の役割や効果を考えながら説明的な文章を読んだりする活動、第２学年では、登場人物について感じたことを交流したり、様々な方法で集めた情報を比較したりする活動、第３学年では、時代や社会背景に着目して文学作品を批評したり、同じテーマについて書かれた社説を比較して読んだりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 　第１学年では、歴史的仮名遣いやリズムに注意しながら古文を音読する活動や、単語の類別を理解する活動、第２学年では、作品の特徴を生かして古文を読む活動や、方言と共通語の果たす役割を理解する活動、第３学年では、作者のものの見方を想像しながら古典を読む活動や、和語・漢語・外来語などの使い分けを理解する活動が取り上げられている。 ○　知識・技能の習得、活用、探究への対応 　「学習の窓」において、第１学年では、文章の要旨をとらえながら読んだり、事実と意見の関係に注意して読んだりすること、第２学年では、人物像の変化をとらえながら読んだり、出来事に着目したりすること、第３学年では、論理の展開をとらえながら読んだり、表現の仕方について批評したりすることなど、学習したことを振り返り、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る学習活動が取り上げられている。			
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成・排列 　第１学年では、必要な情報を選び説明の文章を書く活動の後に、集めた情報を整理し、構成を工夫してレポートにまとめる活動を取り扱い、第２学年で、グループで話し合う活動（第１学年）の後に、互いの意見を検討しながらパネルディスカッションをする活動（第２学年）を取り扱い、第３学年で、立場と根拠を明確にして意見文を書く活動（第２学年）の後に、説得力のある批評文を書く活動（第３学年）を取り扱うなど、系統的、発展的に学習できるよう工夫されている。 ○　内容の分量 　第１学年～「話すこと・聞くこと」は６教材、「書くこと」は 14 教材、「読むこと」は 27 教材であり、総ページ数は 330 ページで、前回より約 4%増となっている。 　第２学年～「話すこと・聞くこと」は５教材、「書くこと」は 13 教材、「読むこと」は 27 教材であり、総ページ数は 328 ページで、前回より約 3%増となっている。 　第３学年～「話すこと・聞くこと」は５教材、「書くこと」は 10 教材、「読むこと」は 26 教材であり、総ページ数は 310 ページで、前回より約 3%増となっている。			
使用上の配慮等	○　日常生活や社会生活に生きて働く言語能力を身に付けることができるよう、「生活に生かす、他教科に生かす、他領域に生かす」を掲載したり（全学年）、読書に親しむ態度を養うことができるよう、「読書案内」などを掲載したり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　学び方を確かめることができるよう、教材でどのような力を身に付けるかを示した「学習」や「目標」を設けたり（全学年）、見通しをもって学習できるよう、学習を通して身に付ける力のポイントを示した「学習の窓」を設けたり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組む工夫がなされている。 ○　巻頭に身に付けたい言葉の力と教科書の構成を掲載して教材ごとに学習する内容を示したり（全学年）、巻末に補充的・発展的な学習に活用できる資料や索引を示した「学習を広げる」を掲載したり（全学年）するなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道と関連のある教材は、「桜守三代」「短歌を味わう」など４箇所取り上げられている。 ○　中学校の国語学習の準備及び小学校における基本的な学習事項の確認の場として「言葉に出会うために」を設けるなど、小学校から中学校への円滑な接続を図る配慮がなされている。 ○　ユニバーサルデザインという観点から、色による識別に頼ることなく、形（実線と破線による区別など）や濃淡で識別できる工夫がなされている。			